

資料編

参考1 都心軸周辺エリア「にいがた2km」のまちづくり



新潟駅周辺・万代・古町をつなぐ都心軸は、ほぼ2km。
この都心軸周辺エリアで動き始めているまちづくりの取り組みを身近に感じてもらい、わくわく感や期待感へつなげていくために、親しみやすい呼称として、このエリアを「にいがた2km」と名付けました。
これから先、わくわく、ドキドキするにいがた2kmにご注目ください。



にいがた2kmを「緑あふれ、人・モノ・情報が行き交う活力あるエリア」に発展

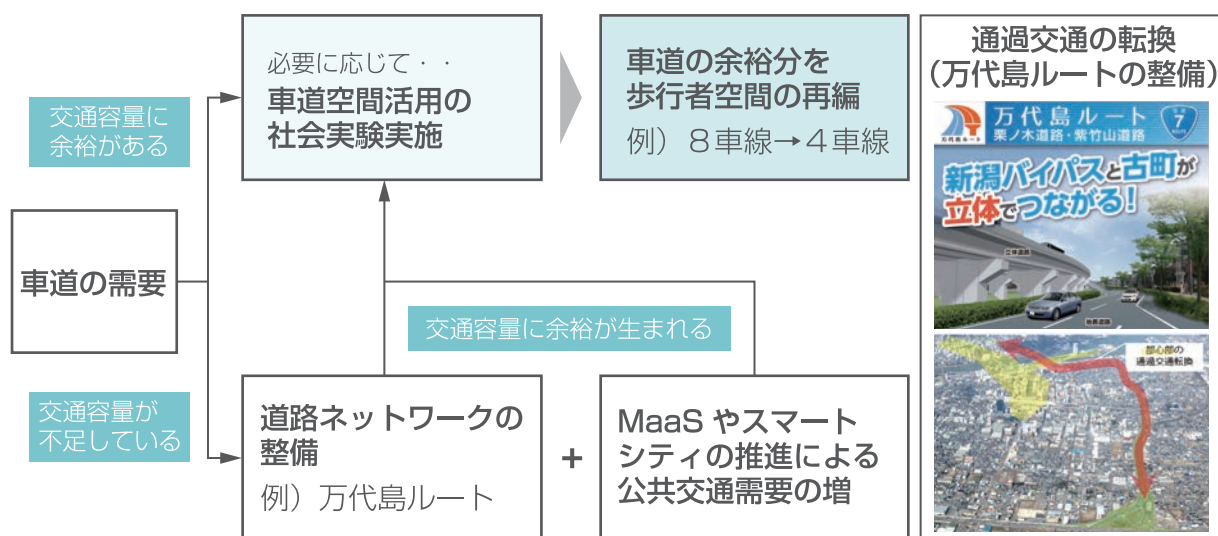
都心の成長エネルギーを市全域へ波及させ、本市の拠点性をさらに向上

参考2 にいがた2km STREET VISION (にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会)

国、県、市、NEXCO東日本から、若手を中心とした職員有志が、一同に会し、にいがた2kmの希望ある未来の創造に貢献したいと「にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会」を立ち上げました。

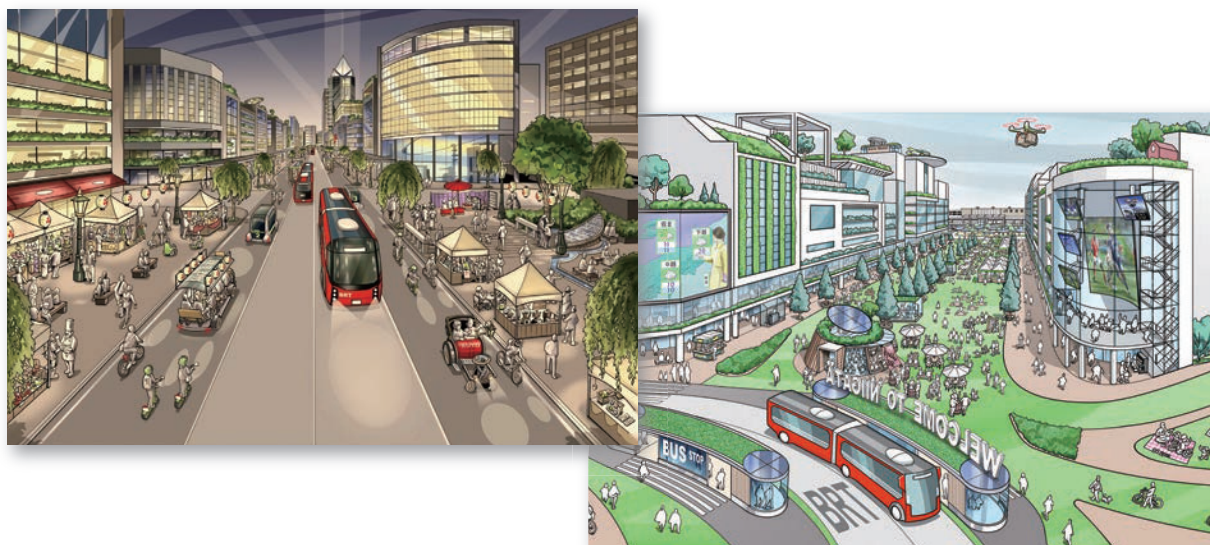
勉強会に集った有志達は、各組織の職員としてではなく、まちづくりに関わる個人として、それぞれの人生経験や若い感性、自由な発想を生かし、にいがた2kmの未来に向けた提言を「にいがた2km STREET VISION」としてまとめました。

人中心の空間拡大に向けた1つのアプローチ



「にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会」より

未来イメージ



「にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会」より

詳細は新潟国道事務所 HP 『にいがた2kmの将来ビジョンに関する勉強会』を参考

参考3 新潟都心地域 地域整備方針

地区	I. 整備の目標	II. 都市開発事業を通じて増進すべき都市機能に関する事項
4 地区 全体	<ul style="list-style-type: none"> ●江戸時代より北前船の寄港地として繁栄し、幕末には開港五港に選ばれ世界に開かれた新潟市の原点である新潟都心地域において、新潟駅周辺地区、万代地区、万代島地区、古町地区を都心地域の拠点地区と位置付け、各地区を公共交通や歩行者等のネットワークで結び、連動させながら、みなとまちの活力と風格、高度な機能を備える都市形成を推進 ●本州日本海側の最大都市という立地とインフラを活かし、国内外の企業に選ばれる都市機能を強化するとともに、産業振興に取り組み、多様な魅力ある雇用の場を確保 ●災害が頻発化・激甚化する昨今において、都心部の都市機能の向上と安全性の強化を推進すると共に、都市間連携を進めることで、太平洋側の災害時に代替機能を発揮する日本海国土軸を形成 ●緑と賑わいがあふれるウォークアブルな空間を形成すると共に、新潟市のシンボルである萬代橋周辺において、信濃川やすらぎ堤や万代テラス（信濃川右岸緑地）など、既存資源を活かした魅力的な水辺空間を形成 ●脱炭素社会の創造に向け、SDGsの視点から、スマートエネルギーシティの推進により、次世代型の環境都市を構築 	<ul style="list-style-type: none"> ●老朽化した建築物の更新に合わせ、細分化された敷地の大規模化・高度利用を図り、緑地などのオープンスペースを創出すると共に、津波避難ビルや一時避難施設、災害備蓄倉庫等を整備し、ハザードに対応した防災機能を強化 ●企業の本社機能やサテライト拠点の誘致に向け、フロア規模や通信インフラなど企業ニーズに沿ったオフィスビルの整備により、業務機能を強化するとともに、職住近接の質の高い都心居住を強化・推進 ●ビル低層部の商業利用やオープンカフェなど賑わいや歩きたくなる空間を創出する開発を促進し、市街地の回遊性を強化 ●公共交通を補完する小型モビリティやレンタサイクル、徒歩など多様な交通手段の活用による、都心部における回遊性の強化
新潟駅 周辺地区	<ul style="list-style-type: none"> ●広域交通結節点の機能を強化し、新潟市の玄関口に相応しいビジネス拠点として、高度な機能と風格を備えた都市空間を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●広域交通結節点の利点を生かした高次の業務機能を誘導すると共に、商業、宿泊など多様な都市機能との複合化・高度化を推進 ●ビジネスフロアとして5Gなど次世代通信環境を整備するとともに、事業者間の交流促進によるイノベーションを生み出すオフィスを整備し、新産業やベンチャー創出につながる、スタートアップ拠点を形成
万代地区	<ul style="list-style-type: none"> ●萬代橋周辺の魅力的な水辺空間と商業集積を活かし、地区内外の回遊性を向上させることで、賑わいあふれるまちづくりを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ●商業、文化、観光・交流、エンターテインメント機能の充実、水辺空間との連携、MICE誘致の促進により、体験型・時間消費型の都市機能を強化
万代島 地区	<ul style="list-style-type: none"> ●都心のウォーターフロントの立地と国際交流拠点機能を活かし、みなとらしさを感じられる賑わい空間を形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●商業、文化、観光・交流、エンターテインメント機能の充実、水辺空間との連携、MICE誘致の促進により、体験型・時間消費型の都市機能を強化【再掲】
古町地区	<ul style="list-style-type: none"> ●様々な機能の都心回帰を進めると共に、みなとまちの歴史と文化を活用し、歩いて楽しめる魅力的な街並みを形成 	<ul style="list-style-type: none"> ●業務、商業、文化、観光・交流、教育、居住など、多様な都市機能の再集積を図るとともに、日常生活や観光需要を踏まえた案内機能を強化し、賑わいあふれる市街地の形成を推進


Ⅲ. 公共施設その他の公益施設の整備及び管理に関する基本的事項	Ⅳ. 緊急かつ重点的な市街地の整備の推進に関し必要な事項
<ul style="list-style-type: none"> ● 温暖化等の影響により頻発する豪雨水害に対し、浸水対策となる雨水管、ポンプ場等の整備を推進 ● 各拠点地区を結ぶ公共交通の利便性向上に向けたバス交通の強化、および拠点周辺へのアクセス向上に向けた多様な交通手段の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史文化や水辺空間など、各拠点地区の個性に応じた景観の誘導により、風格ある都市景観の形成を推進 ● 大規模災害や感染症の蔓延に備えた企業のBCPの観点から選ばれる、安全・安心で新たな生活様式に対応した都市環境を形成 ● 5G、AI、IoT、ロボット、ビッグデータなど先端技術の活用や、DX（デジタル・トランスフォーメーション）を促進し、新潟市の強みである食と農業の分野において、スマート農業や、フードテック・アグリテックに関連する事業創出を推進するとともに、まちづくり分野におけるスマートシティを推進し、Society5.0の実現を目指す。 ● 都心部の移動の円滑化に向け、市民や関係者と協働でMaaSの導入を促進するとともに、安全性の向上を図る公共交通の自動運転化など、次世代技術の活用を検討 ● 新潟市の強みを生かしたイノベーションを促進するため、県内外も含めた農商工連携・産官学連携による高度人材の育成とベンチャー創出の拠点形成を推進 ● ESG投資を促し、太陽光などの再生可能エネルギーや下水熱などの未利用エネルギーの活用促進により、環境に配慮した市街地を形成 ● 民間活力の導入によるエリアマネジメントを推進し、魅力や賑わいの創出と地域価値の向上、情報発信を強化
<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道在来線の高架化や、立体交差道路、万代広場、駅直下バスターミナル（高架下交通広場）の整備促進により、南北市街地の一体化と都市機能の強化を推進 ● 新潟駅南口周辺において、中・長距離バスターミナルを整備し、広域交通結節点の機能を強化するとともに、災害時の一時避難施設や、相乗効果が発揮される業務、商業等の施設との一体整備により、高次の賑わいを創出 ● 都市の緑化と道路空間の再構築を進め、人と車の動線を整理し、回遊性の向上と多様な利活用を促進することで、人中心のストリートを整備 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道駅やバスターミナルなど広域交通結節点周辺の立地を活かし、新潟駅南口周辺地区や万代地区の低未利用地の有効活用を推進
<ul style="list-style-type: none"> ● 都市の緑化と道路空間の再構築を進め、人と車の動線を整理し、回遊性の向上と多様な利活用を促進することで、人中心のストリートを整備【再掲】 ● 立体歩道等の整備により、周辺街区から信濃川やすらぎ堤など水辺空間へのアクセス機能を向上させ、市街地と水辺の連携による活性化を推進 	<ul style="list-style-type: none"> ● 鉄道駅やバスターミナルなど広域交通結節点周辺の立地を活かし、新潟駅南口周辺地区や万代地区の低未利用地の有効活用を推進【再掲】
<ul style="list-style-type: none"> ● 立体歩道等の整備により、周辺街区から信濃川やすらぎ堤など水辺空間へのアクセス機能を向上させ、市街地と水辺の連携による活性化を推進【再掲】 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 立体歩道等の整備により、周辺街区から信濃川やすらぎ堤など水辺空間へのアクセス機能を向上させ、市街地と水辺の連携による活性化を推進【再掲】 ● 既存アーケードや地下街、地下駐車場の利便性や快適性、安全性の向上を図り、周辺開発と連携することで、歩行者ネットワークを充実・強化 	

参考 4 資料用語解説集

用語	解説
5G	第 5 世代移動通信システム (5th Generation、5G)。1G、2G、3G、4G に続く国際電気通信連合が定める規定 IMT-2020 を満足する無線通信システム。超高速、超低遅延、多数同時接続が可能になる。
AI	Artificial Intelligence：人工知能。 人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム。あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術といった広い概念で理解されている。
BCP	事業継続計画 (Business Continuity Plan)。自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画。
DX 〔デジタル・トランス フォーメーション〕	「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。デジタルシフトも同様の意味。「企業がテクノロジーを利用して事業の業績や対象範囲を根底から変化させる」という意味合いで用いられる。
ESG 投資	財務情報だけでなく、環境 (Environment)・社会 (Social)・ガバナンス (Governance) 要素も考慮した投資のこと。
IoT	Internet of Things：モノのインターネット。 様々な「モノ (物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。
ICT	Information and Communication Technology：通信技術を活用したコミュニケーションのこと。
MaaS (マース)	Mobility as a Service：複数の移動サービスを最適に組み合わせて、検索・予約・決済等を一括で行うサービス。
MICE (マイス)	企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会などが行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市・イベント (Exhibition/Event) の頭文字を使った造語で、これらのビジネスイベントの総称。
SDGs	Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標。 「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標。2015 年の国連サミットにおいて全ての加盟国が合意した「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の中で掲げられた。2030 年を達成年限とし、17 のゴールと 169 のターゲットから構成されている。
Society5.0	サイバー空間 (仮想空間) とフィジカル空間 (現実空間) を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会 (Society)。狩猟社会 (Society 1.0)、農耕社会 (Society 2.0)、工業社会 (Society 3.0)、情報社会 (Society4.0) に続く、新たな社会を指す未来社会の姿。
イノベーション	物事の「新結合」「新機軸」「新しい切り口」「新しい捉え方」「新しい活用法」(を創造する行為) のこと。

用語	解説
ウォークابل	居心地が良く、歩きたくなる様子。
エリア マネジメント	地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させるための、住民・事業主・地権者等による主体的な取組み。または、特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営(マネジメント)を積極的に行おうという取組み。
小型モビリティ	自動車よりもコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な足となる1人から2人乗り程度の車両。
サテライト拠点	本社や支社などの通常のオフィスとは別に、郊外や地方などに開設するオフィス(拠点)のこと。
再生可能 エネルギー	太陽光、風力、水力、地熱及びバイオマス(動植物由来の有機物)など、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称。「枯渇しない」「どこにでも存在する」「CO ₂ を排出しない(増加させない)」などの特徴がある。
スマートシティ	都市の抱える諸課題に対して、ICT等の新技術を活用しつつ、マネジメント(計画、整備、管理・運営等)が行われ、全体最適化が図られる持続可能な都市または地区。
スマート農業	ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業。
スタートアップ	「新規性」と「成長性」を有する創業から期間がたっていない企業や事業。(ベンチャーとほぼ同義)
スマートエネルギー シティ	エネルギーマネジメントを都市レベルで実施するもの。
脱炭素社会	地球温暖化の主な原因とされるCO ₂ の排出量を実質ゼロにする社会のこと。
ドローン	無人で遠隔操作や自動制御によって飛行できる航空機の総称。
ハザード	危険の原因・危険物・障害物などを意味する英語。
ハザードマップ	被害予測地図。自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。
万代島ルート線	新潟バイパス紫竹山インターチェンジから中央区寄居町に至る全長約5.6キロメートルの道路。平成4年に都市計画決定され、高速道路や新潟バイパスといった東西方向を結ぶ道路と新潟市中心部を南北に結ぶ。柳都大橋を含む1.5キロメートル区間が先行して開通し、現在、国の直轄事業として、国道7号栗ノ木バイパスで「栗ノ木道路」と「紫竹山道路」の整備を進めている。
ビッグデータ	一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合を表す用語。「オープンデータ」、「知のデジタル化」、「M2M(Machine to Machine)データ」、「パーソナルデータ」に分類される。

参考5 都市再生緊急整備地域指定等に関する経緯

年月	主な経緯
令和2年6月	新潟都心地域が候補地域に設定
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域準備協議会 ○第2回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域準備協議会 ○第3回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域準備協議会
11月	
令和3年2月	
	<p>新潟都心地域の「地域整備方針」と「区域」の素案をとりまとめ</p>
	 <p>第1回準備協議会 (令和2年8月12日)</p>
4月	新潟都心地域の都市再生緊急整備地域指定を内閣府へ申出
5月～7月	パブリックコメント・法制局審査等（内閣府）
8月	新潟都心地域の指定に係る政令が閣議決定
	<ul style="list-style-type: none"> ○第1回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域に係る懇談会 ○第2回 新潟都心地域 都市再生緊急整備地域に係る懇談会
	<p>『新潟都心地域の目指す姿』 『新潟都心地域開発ガイドライン』の素案をとりまとめ</p>
9月	新潟都心地域が都市再生緊急整備地域に指定（政令施行）
11月	『新潟都心地域の目指す姿』・『新潟都心地域開発ガイドライン』の策定・公表

新潟都心地域 都市再生緊急整備地域 準備協議会

新潟都心地域の「地域整備方針」と「区域」の素案とりまとめに向け、産官学金の関係者の皆さまよりご議論いただきました。

新潟都心地域 都市再生緊急整備地域に係る懇談会

「新潟都心地域の目指す姿」や「新潟都心地域開発ガイドライン」等の素案とりまとめに向け、準備協議会委員の各分野の代表者の皆さまよりご議論いただきました。

上記「準備協議会」及び「懇談会」の詳細については、新潟市 HP「都市再生緊急整備地域」を参照



みなとまち。
みらいまち。
新潟市

都市再生緊急整備地域
新潟都心地域の目指す姿
令和3年11月

新潟市 都市政策部 まちづくり推進課

〒951-8554 新潟市中央区古町通7番町1010番地

TEL: 025-226-2703

Mail: machisui@city.niigata.lg.jp



にいがた2キロ

2 *Niigata* km

新潟都心のまちづくり